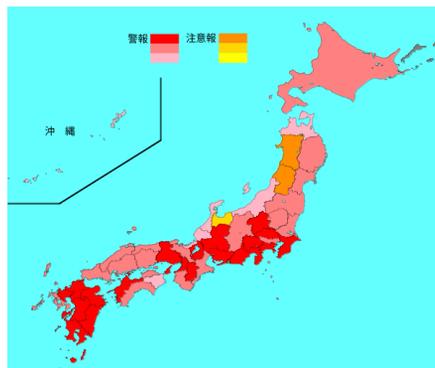
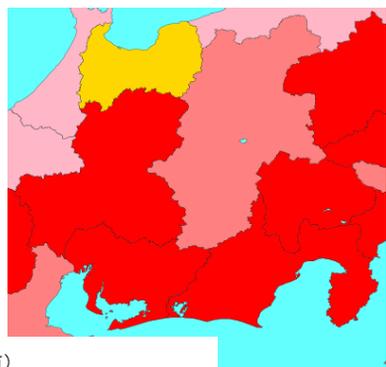


楽しかった年末年始休暇を終え、これからが怖い
インフルエンザの更なる感染拡大！

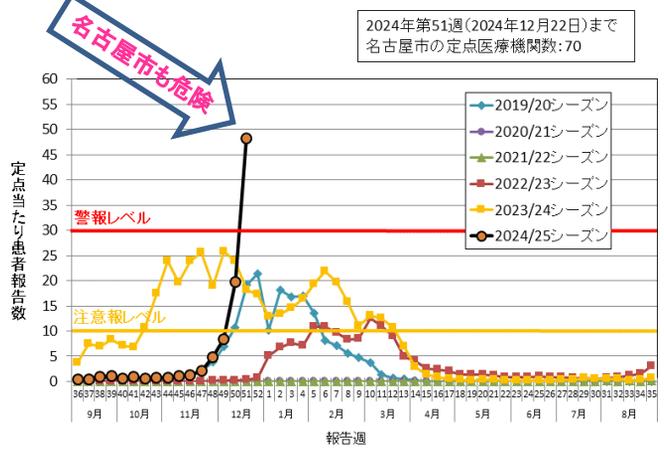
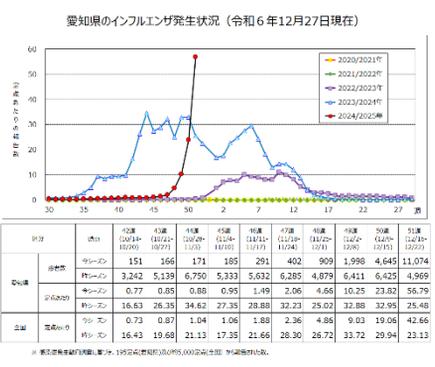
下記の図・グラフを見ても一目瞭然！ 「罹らない・うつさない」を！
そのためには“みんなで予防” 手洗い、マスクの着用等基本をしっかりと！



都道府県別では大分県(82.64)、
鹿児島県(65.57)、佐賀県(61.62)、
千葉県(60.03)、福岡県(59.86)、
愛知県(56.79)、山梨県(55.63)、
愛媛県(52.68)、埼玉県(51.06)、
宮崎県(50.64)、山口県(50.03)の
順となっており、全国47都道府県
で前週の報告数よりも増加です。



インフルエンザ患者報告数(名古屋市)



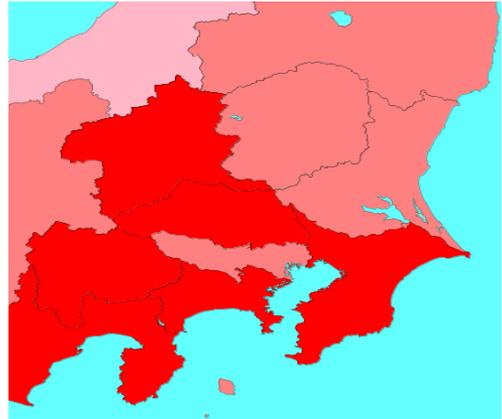
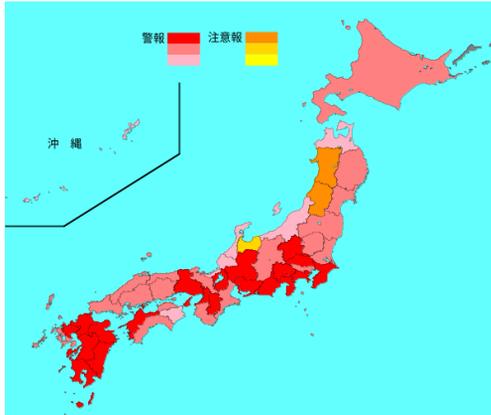
クリニック名古屋ちくさヒルズ
林祐司 院長

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因病原体とする急性の呼吸器感染症で、世界中で流行がみられます。主な感染経路は、咳、くしゃみ等により発生する飛沫による感染(飛沫感染)ですが、物の表面等に付着した飛沫に触れた手指を介した接触感染もあります。症状としては、発熱、頭痛、全身倦怠、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻汁・咳などの呼吸器症状がこれに続き、通常の感冒と比べて全身症状が強いことが特徴です。通常は1週間前後の経過で軽快しますが、罹患中は他の人にうつさない様に休養をして規則正しい生活を心がけてください。



財団榊原会 理事長
院長 林 衆治

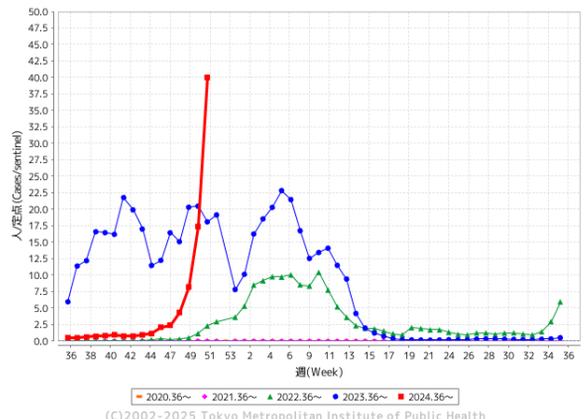
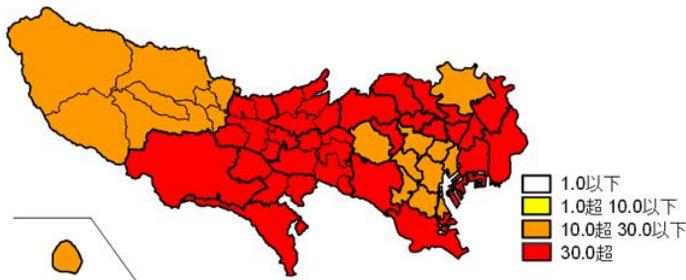
国立感染症研究所感染症疫学センターでは、インフルエンザ流行に 関連する 参考情報として、「警報・注意報発生システム」により 得られた情報の一部を 還元提供しています。具体的には、下図の通り、都道府県ごとに警報レベルを 超えている保健所があれば赤色系3段階で、注意報レベルを超えている保健所 があれば黄色系3段階で示してあります。色の段階は各都道府県の保健所数に 対して警報・注意報レベルを超えている保健所数の割合です。



都内のインフルエンザ定点医療機関からの昨年の12月16日から12月22日(第51週)の患者報告数が 40.02人となり、5年ぶりに都の警報基準を超えました。周辺の神奈川、埼玉、千葉、群馬等では最も 高い警報レベルに達しています。

インフルエンザの予防、拡大防止のために、引き続き、こまめな手洗い、手指消毒、咳エチケット等の 基本的な感染予防策を一人ひとりが心がけてください。体調管理に十分に気をつけ、感染が疑われる 場合には早めに医療機関を受診しましょう。また、高齢の方や基礎疾患のある方は、ワクチン接種に ついて当クリニックにご相談ください。

東京都内における定点当たり患者報告数



健康の知恵袋



現在国内で流行している季節性インフルエンザ のウイルスは、A(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型と B型(ビクトリア系統)だそうですよ。流行しやすい年齢層は、ウイルスの型によって多少異なる ようですが、今年も、全ての年齢の方がインフル エンザに注意する必要があると林院長先生が 言っておられました。

広報紙 「医療法人榊原会クリニック通信」
発行 医療法人財団榊原会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
〒464-0858 名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F

ご意見はこちらまで info@clinic-chikusahills.com
編集・発行 医療法人財団榊原会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
編集委員会(原稿責任者 川島和信)
発行日 毎月1日